

実習の意義と目的、実習計画及び実習目標と内容

I 実習の意義

介護福祉教育における介護実習は、講義による理論学習や演習による応用の思考の訓練とともに、専門的な知識や技術を体験学習のなかで総合させていく貴重な場である。可能な限り、施設と学校教育の間で一貫性と総合性がなくてはならない。

- ①職業人としての人間形成
- ②介護福祉教育の総合的な役割
- ③学内における教育との相補的な役割

II 実習の目的

実習Ⅰ：個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

実習Ⅱ：個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

III 実習計画

実習期間：実習Ⅰ 15日間(120時間)

実習Ⅱ-1 20日間(160時間) *早出、遅出を各1回体験

実習Ⅱ-2 25日間(200時間) *早出、遅出、夜勤を各1回体験

実習時間：午前8時30分より午後5時30分

体験する早出勤務、遅出勤務、夜間勤務については実習施設の勤務時間に準じる。

IV 実習Ⅰの目標と内容

- 目標：1.利用者へコミュニケーションを適切に図り、利用者の生活を知り、思いや生活歴などの情報を得る。
2.生活支援技術を見学し安全な実践ができる。
3.施設の役割や事業内容を学習し、利用者への生活支援を知る。また、介護福祉士の役割を知る。
4.実習生として自覚を持ち、報告、相談が適切に行える。
5.施設でのチームケアにおける他専門職の役割を知る

内容：1.実習目標を毎朝職員へ伝え、実習目標に沿って実習した結果を実習日誌に記録し、毎日提出する。
実習日誌について指導者から確認、指導をもらう。

- 2.事前学習を通して生活に必要な自立支援、安全に留意した個別ケアを知る
- 3.利用者とのコミュニケーションから思いや生活歴などの情報を収集する。

4. 職員の指導のもと、既習の生活支援技術を安全に実践し、未習のものについても見学を行う。
生活支援技術の基本的技術について理解する。
5. 実習指導者および施設職員、教員への報告・連絡・相談を的確に行い、自己の判断だけで行動しないよう努める。

V 実習Ⅱ-1の目標と内容

- 目 標：1. 一人の利用者の全体像をICFの視点から広く捉え、生活上の課題を明らかにし、介護計画が立案できる。また、利用者の生活課題を解決する為の具体的な支援内容、方法を考え、実践できる。
2. 職員の指導のもと、既習の生活支援技術を自立・安全・尊厳の視点を持って実践を行う。
また、様々な生活場面での支援を・方法について理解する。
 3. 利用者個々の心身の状況に応じた生活支援技術の根拠や方法について学ぶ。
 4. 早出勤務、遅出勤務を体験し、利用者の生活や個々の生活習慣について理解を深める。

- 内 容：1. 日々の実習目標を明確にし、事前学習を行って実習に臨む。毎日の実習目標は学生が職員へ報告・相談し、目標が達成できるように行動する。
2. 利用者を一人担当して、コミュニケーションや観察、記録を通して情報収集を行い、ICFの項目を使って情報を整理する。
 3. 収集した情報を解釈し、関連づけて統合し、利用者の生活上の課題を明確にする過程を用紙に記入する。
 4. 利用者の生活上の課題を解決するために、目標を設定し、目標達成のための具体的な支援を考え、実践できる。
 5. 既習の基本的な生活支援技術について、職員の指導の下実践を行い、自らの知識・技術について検証し、利用者個々の特性に応じた支援方法を学ぶ。
 6. 日勤帯以外に、早出勤務・遅出勤務を体験することで利用者の24時間の暮らしについて理解を深める。
 7. 可能であれば医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）を見学する。

VI 実習Ⅱ-2の目標と内容について

- 目 標：1. 立案した介護計画を実施し、評価、再アセスメント、介護計画の修正まで介護過程を展開することができる。
2. 基本的な生活支援技術に知識をもとに、利用者個々の状況に応じた生活支援技術の根拠や方法について学び、実践できる力を養う。
 3. 早出勤務、遅出勤務、夜間勤務を体験し、利用者の生活について理解を深める。
 4. 利用者の生活課題の解決や個別ケアの実現のためのチームケア、多職種連携を学ぶ。

- 内 容：1. 利用者を一人担当して、コミュニケーションや観察、記録を通して情報収集を行い、用紙に記録する。
ICFの項目を使って情報を整理する。
2. 収集した情報を解釈し、関連づけて統合し、利用者の生活上の課題を明確にする過程を用紙に記入する。
 3. 利用者の生活上の課題を解決するために、目標を設定し、目標達成のための具体的な支援を考え、介護計画書を作成する。

4. 介護計画書に沿って実施を行い、結果を実習日誌に記録する。実施に当たっては事前に実習指導者・職員へ報告・連絡・相談を行う。
5. 実施結果から介護計画の評価を行い、用紙に記録する。
6. 評価に基づいて、再アセスメントを行い用紙に記録する。必要に応じて介護計画を修正し、用紙に記録する。
7. 生活支援技術全般について、職員の指導の下実践を行い、自らの知識・技術について検証し、利用者個々の特性に応じた支援方法を学ぶ。実習期間中に多く実践の機会が得られるようにし、支援方法の習得を目指す。
8. 利用者への生活支援や施設で実施されている様々な会議等を通じて多職種と協働する必要性について理解する。
9. 日勤帯以外に、早出勤務・遅出勤務・夜間勤務を体験することで利用者の24時間の暮らし方と職員間の連携について理解を深める。